

## 書籍紹介

- 吉元昭治 著『養生外史 不老長寿の思想とその周辺 中国篇』  
『養生外史 不老長寿の思想とその周辺 日本篇』  
『老荘とその周辺 古代中国医学の源流および道家・道教との関わり』  
『不老長寿への旅 ニッポン神仙伝』…………… 渡部 幹夫 121  
小石家文書研究会 編『究理堂所蔵 京都小石家来簡集』…………… 町 泉寿郎 121  
友部和弘 著『刺絡の道——三輪東朔から工藤訓正——』…………… 町 泉寿郎 123  
小山聡子 編『前近代日本の病気治療と呪術』…………… 町 泉寿郎 124  
小川徳雄・永坂鉄夫 著『英語医学用語——その語源をたどる——』  
…………… 澤井 直 125  
歴史学研究会 編, 中澤達哉・三枝暁子 監修『コロナの時代の歴史学』  
…………… 町 泉寿郎 126
- 第121回日本医史学会のオンライン開催を終えて…………… 志村 俊郎 128  
第121回日本医史学会総会に参加して…………… 松木 宣嘉 131
- 投稿規定 …………… 132  
編集後記 …………… 134

### 《本号の表紙絵》

#### 十返舎一九『疱瘡請負輕口ばなし（ほうそううけおいかるくちばなし）』より

（東京大学総合図書館所蔵）

同書は、十返舎一九（1765（明和2）年～1831（天保2）年）により1803（享和3）年に書かれた紅摺（あかず）疱瘡絵本である。江戸時代に蔓延していた天然痘（疱瘡・痘瘡）は、免疫のない幼児が特に多くかかる病気であり、疱瘡除けになるとされた赤で着色された子ども向けの玩具などが多く作られ、罹患時には周囲を全て赤色にした。香月牛山『小兒必用養育草』（1703（元禄16）年）には「屏風、衣桁に赤き衣類をかけ、そのちごにも赤き衣類を着せしめ、看病人もみな赤き衣類を着るべし。痘の色は赤きを好しとする故なるべし」と書かれている。疱瘡絵も赤色のみの木版印刷であり、病魔を避けようという願いを込めた文言が添えられ、源為朝・鍾馗・桃太郎・金太郎・達摩・みみずくなどが描かれたものが多かった。

（松村 紀明）